



氏名 三枝 直(18歳) 出身 山梨県
 期別 第13期甲種飛行予科練習生(昭和18年12月三重入隊)
 特攻部隊 回天特別攻撃隊・金剛隊(伊58潜水艦)
 戦没日 昭和20年(1945年)1月12日
 状況 伊58潜水艦に乗組み、大津島基地を出撃し、
 グラム島アブラ港内の敵船団を攻撃戦死

軍人の生涯は之れ死の修業



父上 母上
 軍人の生涯は之れ死の修業にて候へば、この期に臨み殊更に遺すべ
 き事も候はず、唯々日頃の不孝と御無沙汰をお詫び申すのみにて候
 君の為、国の為、命を致すは人の子の道なりとは父上母上の常に諭さ
 れし所、只今此の御教訓の万分の一にもお応へ奉るのを機を得たるは、
 唯一の孝の道にやと喜びに堪へ申さず候 惟ふに古来人多けれど、
 真の死場所を得たる人は、余り聞き及び申さず候 然るに私ここに願ふ
 とも叶ふまじき、千載一遇の好機を得たるは、之れ偏へに御先祖の
 有難き御取りはからひならむと、唯々感謝致し居る次第にて候
 私この度、立派に相果て申す事を得ば、私を只今の私たらしめて下され
 し方々に對し、万分の一の報恩の緒にもつきなむと満足至極にて候
 男と生まれ國に報ゆるの務を尽し得るは男子の本懐にて候へば、弟をも
 私の後に続かせ下され度、三枝家一族、國に殉せんこと私の本意に
 して、又兄弟の誓約にて候
 兄上に、直は立派にお約束相果し候旨御伝言下され度候
 終りに只管今迄の不忠不孝をお詫び申し候
 昭和十九年十二月二十九日 三枝 直
 父上様 母上様



伊58潜水艦

○昭和十八年十一月出征時、父に宛てた句
 みんなみ野 大わだ津美に続くなる
 皇ら御戦に われは出でなむ
 ○昭和十八年十一月出征時、母に宛てた句
 天翔ける鳥は屍を残さじと
 航空兵の母は嘆かず
 ○昭和十九年十二月十日最後の帰省時に
 父に渡した辞世の句
 すめぐにの仇砕かずば何を為し
 何を学ばむやまと男の子は

父上母上
 軍人の生涯は之れ死の修業にて候へば、期に臨み殊更に遺すべしき事も候はず、唯々日頃の不孝と御無沙汰をお詫び申すのみにて候 君の為、国の為、命を致すは人の子の道なりとは父上母上の常に諭されし所、只今此の御教訓の万分の一にもお応へ奉るのを機を得たるは、唯一の孝の道にやと喜びに堪へ申さず候 惟ふに古来人多けれど、真の死場所を得たる人は、余り聞き及び申さず候 然るに私ここに願ふとも叶ふまじき、千載一遇の好機を得たるは、之れ偏へに御先祖の有難き御取りはからひならむと、唯々感謝致し居る次第にて候 本意にて候 立派に相果て申す事を得ば、私を只今の私たらしめて下されし方々に對し、万分の一の報恩の緒にもつきなむと満足至極にて候 男と生まれ國に報ゆるの務を盡し得るは男子の本懐にて候 弟をも私の後に続かせ下され度候 三枝家一族、國に殉せんこと私の本意にして、又兄弟の誓約にて候 兄上に、直は立派にお約束相果し候旨御伝言下され度候 終りに只管今迄の不忠不孝をお詫び申し候
 十二月二十九日 三枝 直
 父上様 母上様